

●第一節 はじめに

ここで取り上げようとする法然門下とは、いわゆる派祖となった法然の直弟子たちである。すなわち、聖光（鎮西義）・隆寛（長楽寺義）・長西（九品寺義）・幸西（一念義）・証空（西山義）・親鸞（一向義）を指す。

しかし、本論ではこのうち、資料として十分な著作が現存している聖光・隆寛・証空の三人に絞って比較検討することとしたい。親鸞については十分な著作が残されているが親鸞の思想の前提が他と異なっていると考えられ、その安心論を論じるだけでも多くの紙数を必要とするためここでは取り上げない。

また、諸師の思想を見ていくうえで、資料として取り上げたのは活字となっているもので信頼性の高いものを中心としたつもりである。ただし、証空の著作とされる『観経秘決集』についてはその信憑性について疑問が出されているが安心論としては他の著作と矛盾しないこと、かつ補う点が多いことなどを考慮し、引用したことを付記しておく。

次に一人ひとりの安心論についてまとめ、その後多少の比較検討を加えてみたい。